

皇居三の丸尚蔵館ウェブサイト作成ガイドライン

1 基本方針

皇居三の丸尚蔵館 (The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan) が運用する公式ウェブサイトにおける各ページの統一性・一貫性を高め、利用者満足度を向上させるため、本ガイドラインを定めます。

1.1 規格の準拠 アクセシビリティを確保するための具体的な指針である日本工業規格「JIS X 8341-3:2016」を踏まえ、原則として適合レベルAAに準拠することを目標とし、規格の示す要件にしたがったできる限りの対応を行います。

1.2 配慮の対象 利用する方の使用環境等に関わらず、ウェブサイトの情報が得られ、サービスを利用できるような配慮に努めます。特に、障がいのある方、年配の方が、身体的な制約等が原因で利用できないということが起きないように、できる限り配慮します。また、当館ウェブサイトでは日本語のほか、英語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語での情報提供や、文字サイズの変更機能 (小・中・大) を設けており、多様な利用者への配慮を継続します。

2 構造

2.1 ページ毎にページの内容を識別できる名称を付ける ページのタイトル (title要素) はブックマークなどの登録や音声ブラウザでの読み上げに最初に使われるため、内容を連想しやすい名称をつけます。

- ページ名称を明確に示し、該当ページのリンク名称と一貫性を持たせる。
- 全てのページに異なるタイトルタグを設定し、先頭から15~20文字程度で判別できるように工夫する。

2.2 見出し・引用文・リスト等の要素をデザイン要素では使用しない 音声ブラウザ等は、HTML規格・文法に従って正しく書かれていることを前提に読み上げます。

- 見出しの階層構造を示すh1、h2等を文字サイズの指定用途で使わない。
- 引用を表すblockquote、p要素や、箇条書きを表すol、ul要素をインデント用途で使わない。デザインを整えるためにはスタイルシート（CSS）を活用する。

2.3 tableをページレイアウトの為に使用しない ソースの記述順に読み上げてしまう音声ブラウザ等では、table要素をレイアウトに使用すると意図しない順番で読み上げる可能性があります。

- なるべくセル（td）の結合は避け、th（表タイトル）を表の中間では使わない。
- 極カスタイルシート（CSS）でレイアウトを行う。

2.4 tableを利用する際は、音声ブラウザの読み上げに配慮する 音声ブラウザは表を左上から右下に読み上げるため、行や列の関係が分かりにくくなる可能性を考慮します。

- caption要素で分かりやすい表題を付ける。
- 行や列の見出し項目名はth要素（およびscope属性など）を使って指定する。

3 操作

3.1 点滅文字やスクロール文字は利用しない 視覚に障がいのある場合や、加齢により認知力などが低下している場合、視覚的に変化する情報は把握しにくくなります。

- 点滅を繰り返す表現（blink要素など）や、文字などの自動スクロール（marquee要素など）は使用しない。

3.2 キーボードだけで全ての操作ができる 視覚に障がいのある利用者やマウスの使用が困難な利用者は、キーボードだけを使う場合があります。

- 「Tab」キー、「Enter」キーによる画面操作を可能にする。
- 「onClick」、「onmouseover」等のマウスでの操作を前提にしているJavaScript単独での使用はしない。
- SelectboxでのJavaScriptの「onChange」での表示切り替えは使用せず、通常のselectboxとsubmitボタンで対応する。

3.3 グローバルナビやローカルナビは、読み飛ばせるようにする

- 各ページで使用している共通のグローバルナビ等は、音声ブラウザの使用時にスキップできるよう本文へページ内リンク（スキップリンク）を設ける。

3.4 ページが自動的に切り替わるような技術は使用しない

- 新しい画面を開いたほうが内容を参照しやすい場合は、あらかじめリンク元で明示する（例：「〇〇（新しいウィンドウで表示）」等）。
- ページ削除などにより新規ページへ自動的に移動させる場合は、表記内容を読み上げる時間のインターバルをあける。なるべくポップアップウィンドウは使用しない。

3.5 リンクがあることを見ただけで分かるようにする

- リンクボタン等の画像は枠や影を付けるなどボタンに見えるようにし、テキストリンクにはアンダーラインを表記するなど、視覚的に判別できるようにする。

3.6 リンクはリンク先の内容がわかりやすいように作成する

- 「応募する」「PDFをダウンロードする」といった行動に直結するリンク名で提示し、「ここ」「こちら」「クリック」など推測できない表現は避ける。
- リンクを張った画像には、`alt`属性で適切なリンク先の説明を付ける。

3.7 リンクのある文字や画像はクリックしやすいように大きさ・間隔に配慮する

- 隣接するリンクの間には十分な間隔を設ける。テキストリンクが横に並ぶ場合は行間を広くとるか、間に「|」や「/」を入れる。画像が併設している場合は、画像だけにリンクを設置しない。

3.8 ボタンはその役割がすぐ分かるようにする

- ボタンやラジオボタンなどを独自にデザインする場合は、操作方法が見ただけで分かるようにする。

- 「送信」「応募」ボタンはフォーム最後に表示するなど、入力操作の流れを考慮した配置にする。

4 文字・表記

4.1 文字サイズ・フォントは必要に応じて利用者が変更できるようにする

- 文字サイズや行間を指定する場合は絶対指定ではなく、サイズ変更ができる相対指定（「%」、「em」等）を利用する。
- OSにより搭載されているフォントは異なるため、フォントの指定は行わない。

4.2 内容を理解するのに必要な情報は、色・形、または位置だけでは表現しない

- 「右下のボタン」ではなく「右下の送信ボタン」とし、位置だけでなくテキスト情報も加える。
- 入力フォームで必須項目を示す場合は、その項目を赤くするだけでなくテキストで「（必須）」と加える。
- コントラスト比は、原則として4.5：1以上を確保する。

4.3 機種依存文字は利用しない

- 半角カタカナ、機種依存文字、外字は利用しない。

4.4 音声での読み上げに配慮する 音声ブラウザが正しく読み上げられるよう、以下のルールを順守します。

- 4.4.1 数字: 半角数字で位取りの「,」を利用する。
- 4.4.2 記号:
 - 注記: 「※」や「*」を利用せず、「(注)」と表記する。
 - 方向: 矢印を利用せず、「から」と表記する(例: 「右→左」⇒「右から左」)。
 - 曜日: 「(火)」または「(火曜日)」と表示する。
 - 日付: 「/」を使用せず、「○年○月○日」と表記する。

- 時刻：24時間制とし、日本語ページについては「：」を使用せず「〇時〇分」と表記する。
- 箇条書き：「○」「・」を使用せず、olやul構文を使う。
- 単位：cm等の単位記号は使用せず「センチメートル」と表記する（KB、MB等の情報量の単位は可）。
- 期間・範囲：日本語ページについては「-」は利用せず、「～」を利用する。
- 金額：「¥」を使わず「円」を用い、「,」を入れて表記する（例：123,456円）。
- 連絡先：TEL、FAXは使わず、「電話番号」「ファックス」「階」とする。
- 4.4.3 読み：「方」など複数に読める文字（かた/ほう）や、「醜い」「見にくい」などの同音異義語に注意する。助詞の「は」が正しく読まれるよう、必要に応じて読点を活用する。
- 4.4.4 スペース：単語の間に全角スペースを入れず、デザイン上必要な場合は半角スペースか空白記号（ ）を使用する。
- 4.4.5 ページ内の方向を示す言葉：「下記のとおり」「左のとおり」等の視覚前提の表現は使わず、「次のとおり」とする。
- 4.4.6 リンク：「詳しくはこちら」等の表現は避け、「詳しくは〇〇についてご確認ください」等、内容がわかるリンクテキストにする。
- 4.4.7 括弧（ ）：読み上げに反映されない場合があるため、なるべく使わないか、反映されなくても問題ない表記に配慮する。
- 4.4.8 取り消し線：視覚前提の表現のため、使う場合は「不要になりました」などのテキストも併記する。

5 画像・動画・音声

5.1 画像には基本的に画像の内容を的確に示す alt 属性(代替テキスト)をつける

- 画像には内容を的確に示すalt属性を指定する。章立てなどタイトルテキストの前の装飾画像等は、二度読み上げを防ぐためalt属性を空（alt=""）にする。

5.2 画像に文字を埋め込む場合は、フォント・サイズ・コントラストに配慮する

- やむを得ず画像に文字を埋め込む場合は、文字サイズを大きく（原則14ポイント以上）し、背景と文字にはっきりとしたコントラストをつけ識別しやすくする。

5.3 画像のみで重要な情報を提供している場合は、テキストで補足する

- 図表やグラフなどの画像には、画像と同じHTMLファイル内にテキストで解説を記述する。

5.4 動画を使用する場合は、音声又はテキストなどによる同等の情報を提供する

- 動画リンクの下に、同等の情報を持つテキスト版のリンクを設けることが望ましい。
- 動画には字幕をつけることが望ましく、自動的に再生しないようにする。

6 フォーム

6.1 フォームの入力項目には、入力する内容や条件などを明確に示す

- 入力に関する指示、説明、字数制限等の注意事項などは、音声ブラウザの読み上げを考慮し、入力用のテキストボックスなどの前（入力操作前に把握できる位置）に記述する。
- 必須項目と任意項目の区別を明確にし、必須であることを色や記号だけで表現しない。label要素を用いて項目名と入力欄を関連付ける。

6.2 選択肢が複数個ある場合は選択肢の値をあらかじめ提示する

- ラジオボタンやチェックボックスを使用する際は、最初に「次の○個の中から選んでください」と記述することが望ましい。
- 年月日など数字を選択するコントロールには、選択肢の中に「月」「年」などの単位も記述する。
- 選択する内容によっては、「不明」や「わからない」といった選択肢も用意する。